



今回はアルゼンチンからのAFS短期留学生についてお伝えします。

◇ アルゼンチンからの短期留学生

留学支援団体 AFS から派遣されたアルゼンチンからの留学生、パウティスタ・パノス・ミゲス・ヘルマン君が10月11日(火)から11月4日(金)まで、1年1組に所属して、日本の学校生活を体験しました。

◇ 滞在についての感想 ～パウティスタ君の異文化体験～

Q. 今回の日本の学校生活について、どのような感想を持ちましたか。教えてください。

まず、お腹が空いても、授業中に何も食べてはいけないことに驚いた。お腹が空くと、頭も働かないから、食べたり飲んだりしたほうがいい。そのほうが勉強もできる。けど、日本の学校では、それはできない。だから、そこは大変だった。

それから、アルゼンチンでは、始まる時間がとても早くて、学校も昼には終わる。だけど、日本の学校は、夕方まで授業があるので、とても大変。

あと、アルゼンチンでは、授業に先生が来なかったら、先生を呼びに行く必要はない。先生がこなければ、遊びに出かけていい。そこが違う。

校外研修にもみんなと一緒に行けた。名古屋大学を見て、名古屋大学で勉強したいと思った。農学部に入りたい。農学部で勉強して、アルゼンチンで農場経営をしたいと思った。

短い間だったけど、今は、LINE とか出来るから、みんなと友達でいたい。みんな、ありがとう。



👉 ホームルームのみんなと記念撮影。



👉 級友からのプレゼント贈呈

◇ パウティスタ君と過ごした感想

Q. パウティスタ君と一カ月過ごして、どのような考えを持ちましたか。何か刺激になることはありましたか。教えてください。

パウティ(愛称)の学校は、午前中で終わってしまって、午後の使い方は自由と聞いて驚いたけれど、その時間を使って、自発的に日本語の勉強をしていたと聞いて、さらにびっくりしました。

彼は日本語が上手だけれども、6年間勉強して、あれだけコミュニケーションが取れるのは、凄いなと思いました。僕たちも、もっと勉強して、英語がちゃんと使えるようにならなければいけないと強く思いました。

(1年1組 若井智哉)

本校では、今後も積極的に国際交流に取り組んでいきます。